

令和元年度 星が丘中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- ① 健康で気力のある生徒を育成する。
- ② 学力豊かで創造力のある生徒を育成する。
- ③ 勤労を尊び責任感のある生徒を育成する。
- ④ 国際感覚に秀で思いやりのある生徒を育成する。

【目指す生徒像】

- | | |
|-----------------|------------------|
| ① 気力あふれるたくましい生徒 | ② 自ら学び考える生徒 |
| ③ 進んで仕事をする生徒 | ④ 豊かな心と思いやりのある生徒 |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

21世紀の知識基盤社会の時代を生きる人間を育てるに当たり、生徒の自己教育力を高める創造的な学校経営の推進を柱として、生徒の確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育み、生徒が自分の未来を切り拓く力を育てる教育を実践する。そのために、教職員は同僚性を十分に発揮し、生徒の育ちのプロセスを的確にとらえ、価値のある賞賛と励ましにより「自己肯定感」を育成する。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）確かな学力の定着

・授業時数の確保と学習指導要領に基づく「本時のねらい」を明確に示した授業の展開，個に応じた指導の工夫，さらには指導と評価の一体化を推進することにより，基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等を育成し，確かな学力の定着を図る。

（2）心の教育の推進

○心に響く道徳の授業，読書活動，あいさつ運動，人権教育，国際理解教育，福祉教育等の充実を図り，教育活動全体を通して，思いやりにあふれた心の教育を推進する。

（3）生徒指導の充実

- ・一人一人の家庭的な背景を踏まえながら，生徒とのコミュニケーションを重視し，信頼関係の構築に努める。
- 自律の精神を培うために，「育てる生徒指導」（自己教育力・自己肯定感の育成）の推進を図る。
- 問題行動の未然防止，早期発見，解決に向けて，家庭や他機関との連携を図りながら組織的に取り組む。

（4）健康・体力の向上

- 食育の充実と健康的な生活を送るための指導の充実を図る。
- ・新体力テストの結果を活用し，進んで運動に取り組む態度の育成と体力の向上を図る。

（5）特別支援教育と教育相談の充実

- ・生徒一人一人のニーズに対応した教育支援の充実が図れるよう，校内支援委員会の機能を生かして組織的に取り組む。
- ・不登校の防止や解消，生徒一人一人の悩みの解消を目指し，明るい学校生活を実現するために，教育相談の意図的・計画的な実施と教職員のスキルの向上を図る。

（6）家庭・地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進

○地域の教育力を生かし，家庭・地域社会との連携と開かれた学校づくりに努めるとともに，地域に信頼される学校づくりを推進する。

（7）教職員の使命と資質の向上

・時代や生徒，保護者のニーズに応えるため，教職員としての使命を深く自覚し，協働体制のもとに各自の特性の発揮と資質の向上に努める。また，業務の適正化に努め健康管理に配慮する。

【星が丘地域学校園教育ビジョン】 「未来を見つめ、学び続ける力の育成」

～星が丘地域学校園の学校文化を築くことを通して～

4 教育課程編成の方針

学校経営計画 今年度の重点目標「生徒の自己教育力を高める，創造的な学校経営の推進」に則り，教育課程のスリム化・重点化を図って，確実な授業時数と指導に関する研修の機会を確保し，生徒と教職員が見通しとゆとりを持って生活や業務にあたるよう教育課程を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】
○生徒の自己教育力を高める，創造的な学校経営の推進－生徒の主体的な活動と自己肯定感を助長するための指導の工夫－
・校内の組織的な取組や時間管理への意識を高めるとともに，業務の適正化を図る。
【学習指導】
○自らの考えを進んで表出し，自己肯定感をもって学ぶ生徒の育成
・本時のねらいを共有し，目的をもって学ぶ生徒の育成
【生徒指導】
○家庭や地域との連携を深め，心豊かで思いやりのある生徒の育成
○価値のある称賛と励ましを通して，自己肯定感や誇りを持てる生徒の育成
【健康（体力・保健・食・安全）】
○自己の健康，体力の状況を的確に理解し，進んで健康，体力の向上に励むたくましい生徒の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。
※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A 1 生徒は，進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答80%	主体的，対話的で深い学びを促す教材教具の導入に努め，子どもとともに，本時の学習のめあてを明示し，生徒が意欲的に学習に取り組める授業を展開する。	B	【達成状況】全て90%を達成している。特に教職員と保護者は昨年度と比べ9%程度向上している。 【次年度の方針】学習のめあてや教材・教具の工夫，アクティブ・ラーニングの手法を取り入れるなど，生徒の興味・関心を高める。
	A 2 生徒は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答80%	自分との関わりで，道徳的価値を考えたり，他との関わりを多面的・多角的に考えたりする授業の実践など，これまでの道徳の時間の授業の課題を踏まえた授業改善を図る。	B	【達成状況】教職員は74.4%であるが，保護者や地域住民・生徒とも80%を超えている。 【次年度の方針】道徳の授業において，考え議論する場面などから，思いやりについて深く考えさせる。日常生活においても，思いやりのある行動をとれるよう日頃から指導支援を行う。
	A 3 生徒は，きまりやマナーを守って，生活をしている。 【数値指標】 肯定的回答80%	授業・日常生活の決まりやマナーの状況について全教職員で情報を共有し，課題を明確にした上で場に応じた指導に当たる。その際善い行いは称賛し，きまりやマナーを守ろうとする意欲を高める。	A	【達成状況】教職員の肯定的回答が88.4%，生徒の肯定的回答が88.8%とほぼ同じ結果となっている。ほとんどの生徒が決まりやマナーを守って生活しているが，改善の余地もある。 【次年度の方針】一般的なきまりやマナーの指導を教職員が共通理解し，全職員で継続指導する。また，生徒自らが考えるマナーアップの方策をサポートする体制を整える。交通マナーについては，登下校指導時の見守りの強化や交通安全教室での指導を通し，生徒個々に意識させていく。全体や学年集会の折に，くり返し重点的に指導していく。
	A 4 生徒は，時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 肯定的回答80%	<u>あいさつ運動の推進を掲げる生徒会活動を活性化させ，あいさつの意義を自覚させるとともに，生徒同士がすすんであいさつが出来るように支援する。</u> 月ごとに生活委員会とともに全教職員が通学路で「あいさつ運動」を行い，校内でも教職員からすすんであいさつの励行に努める。	A	【達成状況】教職員の肯定的回答が74.4%，生徒の肯定的回答が95.0%であり，とらえ方にかなりの差が生じている。 【次年度の方針】あいさつ運動を継続強化するとともに，社会に出て通用するTPOを意識したあいさつを身に付けさせる。また，生徒間，生徒と教職員，教職員同士など，お互いにあいさつができる環境作りにつなげていく。
	A 5 生徒は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答80%	年度や学期の節目，学校行事や部活動などにおいて，適切な目標を主体的に立て，個人やグループ，学級で取り組むことにより，生徒に達成感や成就感を味わわせる。	B	【達成状況】保護者や生徒自身は取組に対して肯定的だが，教職員については70%台に留まっている。 【次年度の方針】目標に向かって粘り強く取り組んでいることなど，生徒がアピールできる機会を多くつくる。教職員も生徒へのアプローチを様々な場面で工夫する。

A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	生徒が危険を予測し、自らの健康や安全を守るための行動力を身に付けられるよう、交通安全教室の実施や教育活動全体を通じた安全教育を推進する。 学校と家庭との連携のもと全校で「お弁当の日」を年2回実施する。	B 【達成状況】地域住民・生徒・保護者・教職員と全て80%の肯定的回答であり、健康や安全に対する現状の取組を評価している。 【次年度の方針】継続的に安全に対する意識の高揚を図る。特に、生命の大切さを強調するなど、交通安全に対する意識を高めさせる。
A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	各種ボランティア活動への参加や働く人に学ぶ授業、事業所等での職場体験（宮っ子チャレンジ）を通して、生徒に働くことの尊さを実感させ、他人を思いやる心や社会に貢献しようとする態度を育み、主体的に自己の在り方や生き方を見つめさせる。	B 【達成状況】教職員は74.4%、保護者は81.7%、生徒は85.7%で、生徒は高評価であった。 【次年度の方針】本校は各種ボランティア活動が盛んであり、社会に貢献できる体制は整っているため、啓発に努めたい。また、社会体験活動等を通して、生徒に働くことの尊さを実感させ、他人を思いやる心や社会に貢献しようとする態度をさらに育てていく。
A 8 生徒は英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	英語の授業でコミュニケーション力を高める学習活動を多く取り入れる。英語科の教員を中心にALTも活用して、日頃から英語で会話を増やし、生徒に英会話への自信を持たせる。	B 【達成状況】教職員は79.1%であったが、生徒は82.7%であった。 【次年度の方針】英語の時間において、さらに実践的なコミュニケーション能力を高める授業に取り組む。
A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	生徒が、郷土宇都宮の歴史や伝統文化、産業などについて理解し、郷土への愛情と誇りをもてるよう、総合的な学習の時間を中心として、体系的に学習できるよう指導の充実を図る。	B 【達成状況】教職員は53.5%、保護者は65.0%であったが生徒は77.0%であった。 【次年度の方針】総合的な学習の時間において「地域を知る」「地域に学ぶ」「地域に貢献する」と学年を追って体系的に学習を進める中で宇都宮を意識した課題の設定を考えさせることで、宇都宮の良さを実感させる。
A 10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	国語や学級活動等の学習を活用し、生徒が調べ学習を行う際の学校図書館の利用方法などについて発達の段階に応じた指導を行う。ICTや学校図書を使った授業を展開し、生徒の主体的、対話的で深い学びを促進し生徒の情報活用能力の育成に努める。	B 【達成状況】教職員は76.7%であったが保護者、生徒は60%台の数値だった。 【次年度の方針】どのような場面でICTや学校図書を使用するのがより効果的であるか各教科で検討し、ICT機器や図書の整備を行い、活用する。
A 11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	高齢者の知恵や人生経験に学び感謝や敬う心を育むため、道徳の時間などで、高齢者を扱った学習活動を設定する。また、身近な存在として感じるができるよう、高齢者を体育祭へ招待するなど、交流する機会の設定を工夫する。	B 【達成状況】肯定的回答は、教職員は74.4%であるが、保護者や地域住民・生徒とも80%を超えている。 【次年度の方針】道徳の授業などを通して高齢者との良好な関わり方を意識させ、ボランティア活動や学校行事等で高齢者とともに活動することで、高齢者への感謝やいたわり、思いやりなどの醸成を図る。
A 12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	社会科を中心に、各教科等の授業とこれまでの学校行事や体験活動などを、エネルギーや環境の問題と関連付け、また、生徒や地域の実態を考慮しながら、ESD(持続可能な開発のための教育)の取組を推進する。	B 【達成状況】教職員が19.0%、生徒67.2%であった。 【次年度の方針】各教科等で環境学習に取り組ませる際、生徒が行っている資源ごみの回収や牛乳パックのリサイクルなど身近な活動が「持続可能な社会」につながることを意識させる。
B 1 生徒は時間を守り時間を大切に行動し目的意識を持って行動することで、自己肯定感を高めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	朝の読書活動から日課時間を守るなど、生徒自ら行動がとれ、自信につながるよう、認め励ます指導に努める。 ノーチャイムの実施により、時間を見て行動する力を身に付けさせる。	B 【達成状況】肯定的回答は、教職員83.7%、生徒が84.0%とほぼ同じような結果となっている。 【次年度の方針】日課表に基づき、生徒自ら時間を意識した行動が取れるよう指導していく。また、5分前行動・2分前着席の実施や授業開始・終了の時間を守ることで時間を大切にする態度を養っていく。

目 指 す 学 校 の 姿	B2 生徒は、授業や部活動などで一人一人が課題を持って体力の向上に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答80%	体力向上に向けた研究を行い、体育科を中心に、繰り返し継続して行う学校全体の体力向上計画を作り、年間を通して実施する。また、全校体制で、投力の育成や一人一人の課題解決を保健体育の授業や部活動において促す。	B 【達成状況】保護者・地域住民・生徒とも高い達成感であるが、教職員についてはやや厳しい見方が多い。 【次年度の方針】授業や部活動を通して、体力の向上が達成できたという実感・成就感を味わえる場面を多くつくる。
	B3 生徒は、学習の目的やねらいがわかり、自ら進んで考え発言している。 【数値指標】 肯定的回答80%	学習のねらいを授業の始めに提示したり、本時で育てたい力を明確にしたりして、生徒に授業の見通しを立てさせ、自分の考えから発言できる力の育成を図る。	B 【達成状況】教職員は74.4%だったが生徒は84.4%であった。 【次年度の方針】ねらいを吟味し学習の目的をつかみやすくするとともに、授業の中で生徒にじっくり考える時間を設け、自分の意見や考えを発表する機会を増やすことで、発言力の育成を図る。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答80%	特別な支援が必要な生徒に対して、個別の支援計画を作成・活用し、学級、学年だけでなく学校全体で指導にあたる。その際、「かがやき」「ステップアップルーム」等の特別支援資源も有効活用する。 「宇都宮市学校教育における合理的配慮に係る手引き」の活用を図りながら、適切な合理的配慮の提供に努める。	B 【達成状況】肯定的回答は、教職員が90.7%である。 【次年度の方針】特別支援学級での支援はもちろんのこと、通常学級における要支援生徒を把握し、SCやMSなどとも連携して情報交換しながら適切な支援体制を構築していく。また、必要に応じてケース会議をもち、全職員が共通理解のもとで支援していく。「かがやきルーム」や「ステップアップルーム」も有効に活用しながら支援していく。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 肯定的回答80%	いじめに関する道徳の授業を全クラスで実施し、人権教育の観点から「言葉」の指導を日常的に行っていくなど、日頃からいじめにつながる言動に対し、敏感に、かつスピード感をもって組織的に対応していく。	B 【達成状況】肯定的回答は、教職員は86.0%、保護者は68.2%、生徒は90.6%である。 【次年度の方針】いじめゼロ強調月間に合わせた取組から、生徒の意識が高まるよう繰り返し指導していく。また、年間4回実施している「学校生活アンケート」による現状把握といじめの早期発見に努める。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 肯定的回答80%	「挨拶」「励まし」「称賛」等のお互いをより身近に感じることができる気軽な言葉かけを行ったり、主体的に活動する場面や、活躍できる場面を授業の中に設定したりするなど、どの生徒にとっても自分の居場所となるような温かい雰囲気の学級経営に努める。	B 【達成状況】肯定的回答は、教職員86.0%、生徒が88.8%とほぼ同じような結果となっている。 【次年度の方針】一人一人が主役になれる学級経営、特に、互いを認め励まし合える温かい学級作りに努めるとともに、積極的な励ましや賞賛の言葉かけをする。また、スタンダードダイアリーや教育相談週間を活用し、生徒の悩みごとなどの把握に努め、解決に向けて支援することによって楽しい学校生活を送れるようにする。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答80%	外国人生徒の日本語の力に応じ、当該生徒の母語で日本語を指導する母語指導者と、日本語で日本語を指導する日本語ボランティアと連携し、外国人児童生徒の日本語の力に応じた日本語指導を行ったり、保護者への通訳や翻訳を依頼したりするよう努める。	B 【達成状況】肯定的回答は、教職員が90.7%である。 【次年度の方針】必要に応じて市教育委員会や市教育センター等の関係諸機関と連携しながら本人・保護者の要望に応えたり、学校生活に必要な支援を行ったりしていく。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 肯定的回答80%	生徒会活動の充実を図り、特に学校行事等では、生徒の自発的・自治的活動を積極的に取り入れ、成就感を味わわせる。	B 【達成状況】それぞれ80%を超えているが、教職員は9.7%、保護者は5.4%、生徒は4.7%昨年度に比べて数値が下がった。活気が少しなくなっている可能性があるため、原因を究明していく。 【次年度の方針】一人一人が大きな声であいさつすることが、学校の活気を向上させる一番の方法である。しっかりあいさつや返事ができるよう指導していく。
	A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 肯定的回答80%	深い学びに結び付く授業を実践するため、育てたい力を明確にし、ICTの活用や言語活動の充実を図る。	B 【達成状況】保護者は75.8%ではあるが、教職員97.7%、生徒は88.7%であり、いずれも昨年度より向上している。 【次年度の方針】ねらいを明確にした授業実践に努め、ICTの効果的な活用や、言語活動の一層の充実を図る。

A19	学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	「チーム星が丘」の力を最大限に生かせるよう、学校園司書、学力向上非常勤講師、かがやきルーム指導員、SC、SSW、MS、部活動指導員等多様なスタッフの専門性を発揮する場を設けるなど、管理職のマネジメントのもと、体制を整える。	B 【達成状況】教職員の肯定的回答割合が昨年度の63.6%から65.1%に微増したが、数値指標の80%にはまだまだ到達していない。 【次年度の方針】大規模校ほど一つにまとめることが難しいが、常日頃から教職員同士がコミュニケーションを密に図り、多様なスタッフの専門性をさらに引き出し、協力して指導する体制を整える。
A20	学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	長時間労働の改善のため、業務の精選・見直しを行う。また、外部人材の活用、他教員による業務支援など業務負担の軽減及び分散化を図る。 勤務時間管理に努め、長時間勤務の改善に取り組むなどワークライフバランスを見直す。	A 【達成状況】教職員の肯定的回答割合が昨年度の40.0%から44.2%に増加したが、数値指標の80%には程遠い。 【次年度の方針】「働き方改革」を推し進め、少しずつ勤務時間も短縮されているが、部活動にメスを入れない限り根本的な改革にならない。特に、平日の部活動に改善点を探っていくなど、学校全体で取り組む必要がある。
A21	学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	<u>小中一貫の日を有効活用し、積極的に部会運営を行い、小中が連携して地域学校園の教育ビジョンの具現化に努める。</u>	B 【達成状況】保護者・地域住民では、90%を超える高い評価であったが、教職員は80%台・生徒は70%台に留まった。 【次年度の方針】全体研修会や分科・運営会議で、現状把握に努め課題を見出しビジョンの具現化に向けて学校園全体で取り組む。また、小中一貫教育での生徒の活動を報告する場の設定を図り、取組の周知に努める。
A22	学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	地域協議会の事業や活動をPTAや保護者会等で報告し、ボランティア活動の理解と推進を図り、地域の教育資源の活用を進める。	B 【達成状況】教職員が84.4%から88.4%へ、地域住民が93.3%から96.2%へと向上した。地域で行われるボランティア活動や行事に生徒が積極的に参加した結果である。 【次年度の方針】地域に愛される星中生を育てるためにも地域の教育力を大いに活用する。地域のボランティア活動や行事に、生徒が参加しやすい環境の整備をする。
A23	学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	総合的な学習の時間で、地域・企業と連携した「地域の方々・先輩・専門的な知識を持つ方に学ぶ」授業を行う。 保護者会や三者懇談を活用し、学校の取組や生徒の様子など積極的に情報発信する。 「スタンダードダイアリー」を活用して家庭との連絡を密にし、相互理解を図る。 家庭、地域からの理解を深めるために、土曜授業を実施する。	B 【達成状況】教職員が84.4%から88.4%へ、地域住民が93.3%から96.2%へと向上した。総合的な学習の時間において、地域・企業と連携した授業を行うなど、生徒は自らの将来を深く考える機会を得ている。 【次年度の方針】保護者会や三者懇談に加え、各種便りや学校ホームページを利用し、積極的に情報を発信し、家庭・地域と密に連携を図る。
A24	学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	日常的な点検の他毎月1回、生徒等が多く使用する設備・施設について、計画的かつ組織的に安全点検を実施する。 体育祭などの学校行事の前後や、暴風雨、地震、近隣での火災などの災害時や近隣で危害のおそれのある犯罪の発生時など、必要に応じて点検項目を設定し、臨時に安全点検を実施する。	B 【達成状況】保護者・地域住民・教職員ともに安全に配慮した環境に関しては数値指標の80%を超えている。 【次年度の方針】さらなる安全な環境づくりや災害時の対策を強化し、学校が常に安全な状況を保てるよう努力を継続したい。
A25	学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	図書選定委員会を開催し、資料として活用できる図書等を計画的に整備する。 学習内容に応じ、課題の発見・解決のために必要な資料等を市立図書館・<u>地域学校園内の学校から借りる</u>など、積極的に連携する。	A 【達成状況】教職員は76.7%、保護者は66.1%、生徒は68.9%で、数値指数には届いていない。 【次年度の方針】タブレット型パソコンが配置され、教職員の研修も行われた。使用方法を熟知し、生徒が十分活用できるように指導する。また、図書選定委員会を開催し、資料として活用できる図書等を計画的に整備する。

	B4 教職員は、あいさつや対応が丁寧である。 【数値指標】 肯定的回答80%	誰に対しても気持ちのよいあいさつを教職員自らが率先して行うとともに、相手の立場や気持ちになって、丁寧に接するよう努める。	B 【達成状況】教職員は86.0%、保護者は87.5%、地域住民は100%、生徒は85.3%で、数値指数を超えている。 【次年度の方針】星中が「あいさつができる明るい学校」として認知が進むよう、まず教職員が気持ちの良いあいさつを率先垂範する。
	B5 教職員一人一人が指導力向上に努め、生徒の自己肯定感を高められるよう、認め励ます指導に努める。 【数値指標】 肯定的回答80%	指導力の向上を目指した研究プロジェクトに取り組み、全ての教科で校内授業研究会を実施する。 授業を展開するうえで、生徒相互が学び合い認め合う場を数多く設ける。	B 【達成状況】教職員88.4%、生徒90.6%と高い数値になっている。 【次年度の方針】グループ活動など生徒同士が学び合う場を設けることで、互いの良さに気づき、自己肯定感が高められるようにする。また、生徒の発表や作品等の良さをきちんと評価し称賛していく。
	B6 教職員は、一貫性・公平性のある生徒指導を基にして、生徒の規範意識及び自己肯定感を高めている。 【数値指標】 肯定的回答80%	生徒指導部会を中心に、生徒一人ひとりの状況に配慮しながら段階的な粘り強い生徒指導を推進する。また、部会記録を回覧し、生徒への指導に対し共通理解を図ることで、全校体制で公平かつ一貫した生徒指導を行う。	B 【達成状況】教職員の肯定的回答が86.0%、生徒の肯定的回答が83.9%とほぼ同様な結果となっている。 【次年度の方針】教育相談部会や生徒指導部会での情報交換を確実にを行い、個々の生徒の状況を的確に把握する。また、積極的に賞賛や支援を行い自己肯定感の醸成に努め、正しい人権感覚を持って指導に当たる。
本校の特色・課題等	B7 総合的な学習等において、自らの課題が設定され、地域をフィールドにした調査研究活動が行われている。 【数値指標】 肯定的回答80%	地域をフィールドにした調査研究活動が意欲的に行われるよう、発達の段階に応じた生徒の興味・関心に基づく適切な課題を設定し、追究させる。	B 【達成状況】教職員74.4%生徒97.0%と大きな差が出た。生徒の肯定的回答率の高さは、各学年で設定した課題に対して、生徒が十分に達成感を味わえる取組ができたためと思われる。 【次年度の方針】意欲的に取り組んでいる生徒の様子や学習の成果を各種便りや掲示物等、学校全体で共有していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 生徒たちは明るく、充実した学校生活を送っている。あいさつや言葉遣いもほとんどの生徒が適切に行うことができる。日常の授業や体育祭・学習発表会などの学校行事にも主体的に取り組み、成果を上げている。
- 保護者による評価では、いじめ対応や教科指導について、他と比較して肯定的回答の割合が低い。保護者にとってたいへん意識の高い評価項目であり、継続した取組と一層の努力が必要と考える。
- 小中一貫教育については、生徒の評価のみやや低いものになっているが、前年度に比べて若干肯定的回答の割合が増加した。今後も、小中一貫教育について生徒に理解を深めさせ、より身近なものとなるよう指導・支援を行う。
- 地域学校園の各小学校との連携強化を図りながら、9か年を見通した指導計画を作成し、星が丘地域学校園教育ビジョン「未来を見つめ、学び続ける力の育成」をめざし、小中一貫教育をさらに推し進めたい。
- 本校生徒の授業への取り組み方はやや消極的で、改善が望まれるとの指摘もあった。生徒が落ち着きかつ活発に話し合う学習活動や積極的な発表等で主体的に授業に臨めるためのICT機器の活用による学習形態の確立など、教職員一人一人がスキルアップ研修を重ね、授業力の向上を目指す。
- 宇都宮学や持続可能な開発のための教育(ESD)に関しては、認知、周知の仕方を含めて様々な方策を検討、実施していく必要がある。
- 各種便りの積極的な発行や、ホームページの更新に努めるなど、各種広報活動を充実させた。保護者や地域への情報発信にさらに努め、開かれた学校づくりを推し進めたい。
- 地域の方からの評価はたいへん肯定的なものであった。これからも地域の方々からも信頼され応援して頂ける学校づくりを推進したい。

6 学校関係者評価

- 学校に活気が感じられる。運動部のみならず文化部の活躍も星が丘中の特色となっている。合唱部の活躍ぶりは特質すべきことである。良い意味で星が丘中の伝統となっほしい。
- 小学生との定期的なあいさつ運動は、実施する中学生にとって自己肯定感を高めることとなっている。小学生にとっても憧れの存在として、中学生を捉える機会となっている。良い意味での循環となっていると考えられる。
- 星中生の多方面にわたるボランティア活動はたいへん活発であり、地域としてもありがたい。今後より多くの生徒に

ボランティアの機会を与えてほしい。

- (4) 持続可能な開発のための教育(ESD)に関しては、各教科等で環境学習に取り組ませる際、生徒の身近な問題等を可視化させるなどして「持続可能な社会」につながることを意識させるとよい。
- (5) 生徒の登下校の安全確保という視点からも環境点検をさらに推し進めて、改善を要する点等を関係機関に積極的に発信してほしい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- (1) ○星が丘地域学校園教育ビジョンである「**未来を見つめ、学び続ける力の育成**」のために、自己肯定感の高揚をキーワードに学区内小学校との連携をより一層強化し、その実現を目指す。
- (2) 学力の向上については、学習習慣の定着を図る取組を継続させるとともに、学力向上プロジェクト等で教員が学校課題を自分のものとして捉え積極的に授業の改善を図る。また、授業力の研鑽、向上に繋がる研修会を実施する。
- (3) ○地域学校園における各部会の連携を深め、小中間での指導法の研究や教科の関連をさらに検討し実践することで、小中一貫教育をさらに推し進めていく。
- (4) ○社会性を身に付け、地域社会に貢献できる人間の育成を目指し、教科としての道徳を中心に全教育活動の中で実施される道徳教育を意図的・計画的・横断的に行う。さらに、小中9か年の星が丘地域学校園の指導計画に基づいて、道徳的実践力の涵養を図る。
- (5) 健やかな体を育成するために、保健体育の授業を中心に教育課程内及び部活動を通して計画的・継続的に指導を行う。また、昼休みの体育館開放を次年度も実施し、運動をより身近にするための継続した取組を行う。